

## 第4回北播磨新地域ビジョン検討委員会 議事録要旨

- 1 日時：令和3年7月19日(月)14:00～16:00
- 2 形式：対面（一部オンライン）会議
- 3 出席者：  
委員：田中委員長、内藤副委員長、山本委員、中野委員、徳岡武義委員、河越委員、  
徳岡和秀委員、藤本委員、藤後委員、谷尾委員  
（オンライン出席）：松本委員、三宅委員、奥貫委員、降松委員  
（欠席委員）：依藤委員、富澤委員、下岡委員  
県側：大西副局長、菅原室長、小林班長

### 4 内容

- (1) 検討委員会委員、県民局職員紹介
- (2) 起草部会経過報告を起草部会・内藤会長から報告
- (3) 北播磨新地域ビジョン骨子（案）を事務局から説明
- (4) 審議

#### [委員長]

・3議題（1）北播磨新地域ビジョン骨子案についての審議に入る。本日は主にこの骨子案の中核をなす第5章の将来像と五つの柱について検討したい。それでは、骨子案、11ページ、第5章で提示されている30年後の北播磨地域のあるべき姿の将来像について、地域の人々が共有できるかという観点からご検討いただきたい。あわせて12ページ、五つの柱についても意見があれば発言をお願いしたい。

#### [委員]

・新地域ビジョンの目指す将来像のフレーズを見た個人的な感想だが、いい感じで表現しており、特にここちよいという部分が、いいフレーズだと感じた。

#### [委員長]

・骨子案について、今回初めて見る委員もあると思うが、質問でもいいが、何か意見はないか。

#### [委員]

・皆さんから聞いた意見が非常に綺麗にまとまっていると思うが、12ページが気になる。綺麗にまとめようとしたため、余計にそうなるのかもしれないが、自然環境保全という言葉が持つイメージと、その中に含まれている内容が、少しミスマッチなように感じる。分野的には、農業を産業の中に入れていたので、自然と生産の部分と生活という三つの枠で学問的に考えている。そういう時に、生産的な、人為的な部分、ここが自然環境保全という言葉と、私の中ではミスマッチになる。そういう意味では7ページの自然環境保全の皆さんの思いの四つの項目も同じことが言える。三つ目の防災の部分は自然環境を保全する中で、災害を軽減していく必要があるということで、少し関わりはあるが、やはり生産、農と食、交通インフラについては、少し違和感がある。また、五つの柱というのが並列的にならないでいるが、誇れる地域というのが真ん中で少し居心地が悪い。全体で誇れる地域の柱があり、その他の四つの柱がその階層下に個別要素として位置づけられる構造として捉えるとわかり易いのではないかと。すなわち、五つが並列で並んでいるのが、少しむずがゆい部分があるという感想を持った。中身について何かが悪いと言っているわけではないので、他の委員にも意見を聞いてほしい。

**[事務局]**

・誇れる地域は、一番迷ったところだ。いろいろ変遷があり、最初、地域回帰としたが、違和感があるということで、誇れる地域で提案した。意見をいただきたい。また、自然環境保全が、実際の中身と少し違和感があるということについては、検討させていただきたい。

**[委員長]**

・今の件（少し聞き取りにくかったのだが、）自然環境保全のところと、産業・雇用との関係があって、明確に区別できないような見方ができるということと考えるよいか。

**[委員]**

・そういうことだ。私たちは、分野的には、自然・生産・生活を三つの枠組みで整理をしていて、生産と自然はいずれにしても交わるので、別に無関係ではないが、食や、農地で米を作る、畑で野菜を作るという生産環境については、生産の枠で処理をして、自然環境の枠は、山林、里山の保全という空間的な要素、保全の要素が強い。それから、生き物が入っていないのが気になる。そのように整理していくと、少し違った形になるのかなというイメージだ。生活の枠が一番大きい。生活環境というのが当然膨らんでいて、いろいろな意見が出てきたということだと思うが、そういう意味では自然が少し弱い。おそらく、少しバランスをとるために、いくつかを自然のほうに入れたのかなという感想だ。間違いではないが、若干むずがゆいようなところがあるという意見だ。

**[委員長]**

・今の意見を踏まえ、変更が必要かどうかは、事務局で検討いただきたい。

**[事務局]**

・生活の部分が多く出ていると思うので検討する。

**[委員長]**

・今の件に関しては、確かに 11、12 ページだけ見ると、キーワードとピックアップしたところが切られているので、それだけ見ると違和感がある点も、既に前の章で、それぞれのキーワードについて比較的細かい説明があり、そこと併せて読むと、キーワードだけ読んだときとは違う受け止め方があると思う。その辺のバランスを事務局に検討を委ねたい。その際、委員には新たな意見や具体的なアドバイス等があったら、個別に協力いただきたい。

**[委員]**

・12ページの多世代交流・多文化共生のところでは気になるのが、年齢、性別、国籍という記載だ。性別のところは、今 LGBT などタッチーな問題で、男、女というような括りでなくなっているので、これは必要なかと思った。また、国籍とあるが、ミャンマーのロヒンギャ族は無国籍の扱いを受けているので、人種や国籍というような表現がよいと考える。

**[委員長]**

・具体的な提案は、性別という表現が相応しくないということと、国籍ではなくて、人種にした方がいいということか。（委員：いえ人種や国籍）。性別を外すか、別の表現に変えるかは検討対象だと思う。それから国籍を、人種や国籍とすることの方が現実的だが、この辺の変更を含めて事務局はいかがか。

**[事務局]**

・LGBT もあったから性別と入れた経緯があるが、あまりそういう言葉を使わない方がいいということであれば、削除してもいいかと思う。

**[委員]**

・人種という形で、括れるかなと思う。

**[委員長]**

・性別という表現はいろいろ議論があるところだ。むしろ LGBT のことを考えて性別というのを明確に表現すべきだという主張もあるし、ジェンダーの性別等、多様な捉え方がある。いろいろな意見があることを考慮したうえで、どう判断するかを検討し反映させたい。

**[委員]**

・加西市で総合計画を昨年作った。その中で、先ほど委員が言われた、自然環境保全の一つめの柱だが、例えば、防災防犯意識の向上や、自然災害が少ないことと自然環境をまとめて、安全安心な暮らしとまとめたことがあるので、自然環境保全というキーワードに変えて、例えば、豊かな自然と安全安心な暮らしとか、何かキーワードを変えたら、違和感がなくなるのではと思った。そして 10 ページ、自然が豊かという一方で不法投棄が多いというような表現があるが、これは全県下で比較し、北播磨だけ多いということがあって、こういう表現になったのか。自然環境の中の話と、不法投棄に違和感があるような気がしたので、そこを伺いたい。

**[事務局]**

・不法投棄について、産業廃棄物の担当者の話では、全県で一番多いということではないが、多いのは多いということだった。説明が後になったが、第 2 章の現状は、要点だけ抜粋している。実はある程度長文で作っており、それを短くして骨子案にまとめたので、いろいろと足りない部分はあるかと思う。いろいろな要素を書いた一方で、不法投棄もあると苦言を呈している。担当者の話では、自治会等でも非常に協力してもらい不法投棄対策を熱心にやっているということなので、現状の対応として、こういうことも行っていると書いた。

**[委員長]**

・つまり、自然が豊かであるということに関しては、背景でそれなりの努力をしているということも含め、今後もその努力が必要だというニュアンスもあるのだろう。前半のキーワードについては、何か具体的に提案があるか。

**[委員]**

・豊かな自然と安全安心なまち、のような並列になってしまうが、そういうまとめ方はどうかと思った。

**[事務局]**

・非常にいい意見をいただいた。実は案を作る際、安全安心という言葉を入れるという案もあったが、少し長くなるかと自然環境保全とした経緯もあるので、もう一度考えたい。

**[委員長]**

・先ほども申したが、11、12 ページの第 5 章のところだけを見ると、キーワードを中心に柱を立てるために、言葉をそぎ落とし、若干無理をしながら短い表現にまとめているので、無理を感じるようなところがあるかもしれないが、先ほど事務局から説明があったように、第 2 章で細かく、丁寧に説明しながら、言葉を費やして表現している。最終的に冊子になったときには、全体を通してのバランスや表現ということ併せて考えているので、第 2 章と併せて考えると、第 5 章も理解できるような状況になっていると見ているがそれでよいか。

**[事務局]**

・そういうことで理解いただけたら幸いだ。

### [委員長]

・そういうことで今後検討の結果、修正の必要があれば、修正することを前提に進めたいので、その点をご理解とご協力をお願いしたい。だからと言って、質問や意見を控える必要はないので、今日は質問や意見を出してほしい。

### [副委員長]

・先ほど出ていた不法投棄の問題だが、不法投棄という事象の背景にも目を向ける必要があるのではないか。経済優先、生産効率優先の風潮を見直し、自然環境や社会環境そして労働環境にも配慮した価値観が尊重される社会を築いていかなければならない。例えば、欧州で生まれた農業生産の行程管理に GAP 認証がある。そこでは農産物の安全だけではなく、環境保全や労働者にも配慮した農業経営委による農産物が公的に推奨されている。ところが日本の有機 JAS で認証されるのは食品の安全性だけで自然環境や労働環境は認証項目に含まれていない。今や生活基準となった GAP の概念が日本社会の思潮になれば、不法投棄も減少するのではないか。これに関連して、県の将来構想試案の大潮流の中の6番に、価値観と行動の変化が掲げられている。新たな価値観・行動様式を根付かせ、新しい時代の豊かさを生み出すとある。難しいことではあるが、長期ビジョンの策定に当たっては、このような観点をよく心して検討すればいいのではないかと思う。

・それから12ページの産業のところ、北播磨の宝である地場産業を元気にし、という記載がある。宝であるという言葉が何回も出てくるが、一般的に宝と言った場合には、固定的なものとして、博物館に飾るようなイメージや、個人的には大事にしまっておくというような感覚もある。地場産業の衰退がなぜ起こっているかという、需要が減っているからだ。農機具や小野の金物でも、どんどん売れていた時代ではなくなっている。産業構造の変化、生活スタイルの変化でそうになっている。そうであれば、伝統産業を従来通りの形で復興するのではなく、違う異業種の分野と連携して生き延びていくなど、伝統の中の革新という産業政策も大事だ。そのあたりを含めた観念の記述が必要ではないか。

### [事務局]

・宝というのは、大事なものという意味で使っている。そしてこのビジョンは、北播磨地域の皆さんで作る前提だ。だから行政本位で作るものではなく、今後の地場産業をどうするかという政策面の話については、30年後のことでもあり、まだそこまで考えていない。我々は、産業振興をする部署ではないので、このビジョンを達成するため、産業振興の部署で考えることになる。地場産業を守っていきたいという趣旨で書いており、どこまでやっていき、どう表現していくかというのは、今後、相談させていただきたい。

### [事務局]

・副委員長が言われた宝というのは、いろいろな言葉の捉え方がある。かぎ括弧にしているのは、いろいろな捉え方があるということで、「宝」とした。言われたように、地域の皆さんは、地場産業がもっと元気を取り戻し、活性化するための取組みが必要だと言われている。我々も伝統産業のようにしてしまうのではないということで、宝という言葉を使ったが、先ほどの産業廃棄物の件もあるので、全ての言葉を見直しながらまとめていきたい。

### [副委員長]

・伝統産業は、守っていくのは大事だが、今言われたような、宝を発展性のあるものというイメージを表にだせばインパクトがあると思った。もう少しダイナミックな言葉にした方が、産業の躍動力も表せるのではないかと思うので、検討いただきたい。

### [委員長]

・今の宝のことにしても、キーワードで突然出てくると、受取り方の違いがあるかもしれないが、第2章で丁寧に触れていけば、それをキーワードとして、括弧つきの宝だと理解されるのではないか。この宝というのは財宝という言い方もする。その財宝、国宝というのが、この財の宝にしても、いわゆる有形文化財、無形文化財ということで、必ずしも物にこだわらず、精神的なモデル的に財とか宝とか言う言い方をする使い方もある。第2章で説明があれば、使えるのではという気がする。今のような意見が、第2章の言葉を豊潤に使って説明するところに加えられれば、キーワードそのものが生きてくると思うので、そういう検討をお願いしたい。

### [委員]

・12ページの柱で2点ある。まず一つ目が、自然環境保全の括弧内の2行名。自然災害にも備えた交通インフラの整備とあるが、前半で説明があったのかもしれないが、具体的なイメージがわからない。二つ目は、歴史文化・観光の括弧内の、サイクリング、歴史文化資産の探訪などをアナログ、ドローンでの空中散歩をバーチャルという表現をしていると思うが、少し違和感があり、これはリアルとバーチャルといった表現の方がいいのではと思ったので、検討していただきたい。

### [事務局]

・国土強靱化のイメージで書いているので言葉使いは考える。リアルとバーチャルは検討する。言われるようにリアルとバーチャルの方が現実的かもしれない。皆さんの意見も聞きたい。

### [委員長]

・一般的な対比としては、アナログならデジタル。バーチャルならリアルが、一般的な対比の言い方なので、そういう言い方になることの説明がどこかであればわかりやすいと思う。

### [委員]

・11ページの目指す将来像の一番上の行に、「新地域ビジョンでは、30年後の北播磨地域のあるべき姿を描いています」と書いてある。ということは、その下の「目指す将来像」のところには、あるべき姿が記載されることになると思う。第1段落はあまり違和感がないが、第2段落の「田園」のところ。前半は違和感ないが、後半に、「北播磨の田園や、その恵みに新たな未来の技術が融合することで、ここちよい暮らしを生み出し、誰もが心豊かな北播磨を創造します」と書いてある。この「創造します」という言い回しは、あるべき姿、つまり、ここに到達したというようなことを表す表現方法としては違和感がある。例えば、「誰もが心豊かな北播磨が創造されています」であれば、そのような形で30年後の北播磨があるというような表現になるが、「創造します」というのは、これから、それに向けて進んでいきますということを表すので、30年後にそこに到達しているという表現にはならないのではと思い、若干の違和感があるがいかがか。

### [事務局]

・ご指摘のとおり、ここはあるべき姿と書いているが、どちらかという目指すべき姿のような意味だ。言葉遣いに配慮が足らなかったと思う。

### [委員]

・目指すべき姿でも同じだ。こういう形ができ上がっているということを示しているのが、その下の文章だから、30年後の北播磨に向けて、「次のような取り組みを進めます」というのであれば、この文章でも違和感はない。

**[委員長]**

・今の委員の意見は、下に書いてある説明文が、30年後の将来像はこうなっているというのが書かれるべきで、現時点で30年後に創造しますという言い方が不自然だということだ。提案があったように、創造されていますというような表現にすれば、言葉の違和感が取れるかなという提案なので、検討いただきたい。

そして、あるべき姿と今回なっているが、何回か前の起草部会で、あるべき姿なのか望ましい姿なのかということ、話題になったように思うが、あるべき姿より望ましい姿の方がいいという提案もあるのか。

**[委員]**

・私は起草部会で話したことがあるが、あるべきというのは、こうしないとだめだというニュアンスを感じるので、個人的にはあまりしっくり来ない。検討いただくと嬉しいとは思いますが、あるべき姿で決まったということであれば、それでいいと思う。

**[委員長]**

・たしかその時に私も発言したと思うが、あるべきというのが、そうでなければならぬという意味で現在語は使う。一方でそうありたいというときにも、あるべきというような言い方を使うので、望ましいという表現を包含しているというようなことを言ったので、あるべきを採用されたかもしれない。しかし、相変わらずそういう捉え方があるとするなら、もう一度望ましい姿という言葉の使い方も検討の対象かと思うので、改めて検討いただきたい。

**[事務局]**

・趣旨はよくわかった。

**[副委員長]**

・先ほどのテーマだが、あるべき姿というのは最初に言われたように、目指す姿の方がいいように思う。こちらから主体的に計画も作り、能動的に働きかけていく姿なので、あるべき姿に2つの意味があるとしても、誤解があるのが今回わかったので、目指す姿の主体がはっきりしてわかりやすいと思う。

**[委員長]**

・何回か前の起草部会で、今のようなあるべき姿、目指す姿という議論があったと思うが、その時に目指す姿というのを、最終的に30年後イメージできるのは、こういう姿になっていると、いろいろな期待が持てるということを考えると、現時点から目指すというよりも、30年後はそういう姿であるというようなことを考えて、あるべき姿を使うということで一応落ち着いたように記憶するが、そうではなかったか。(事務局：望ましい姿ということで)その点については、一度議論したように記憶するので、今のような意見も踏まえた上で、表現を変えるのかを含めて検討いただきたい。

**[委員]**

・先ほどの意見の通り、目指す将来像というのは、将来像がそこに見えないとだめだと思うが、田園の恵みが生み出すこちよい未来の暮らしという言葉が、すっと入ってこない。田園の恵みというのは、すごくいいと思う。北播磨の環境で、一番誇れるものだと思うが、未来の暮らしと入ることで、こちよい暮らしや、目指すものがパッと見えたらわかり易いが、下の文章も見てということだと思うが、わかりにくい。代替案がないので、質問を躊躇していたのだが。

**[委員長]**

・どこに違和感が強いのか。

**[委員]**

・違和感が一番強いのは、未来の暮らしというところだ。そこを目指していくのに、

未来の暮らしという表現に違和感がある。

**[委員長]**

・30年後はこうなっているという将来像なのに、30年後の未来の暮らしという言い方に違和感があるということか。

**[事務局]**

・皆さんの意見を聞くと、ほどよい田舎という意見があった。一方で、中途半端ないなかのような話もあった。そして、田園だけでなく都市機能もあるという意見もあった。今まで起草部会でも、田園と都市の融合のようなキャッチフレーズにしたらどうか等、いろいろ意見をいただき検討してきた。その中で、やはり一番は田園で、そして都市的機能だが、そのまま言うとバランスが悪い。そこで、苦肉の策的などころもあるが、未来という言葉で、都市的なイメージを入れようと、ここであえて未来と使った。未来のことをいうのに、また未来というのはおかしいのではということ承知しているが、都市的な発達したということをも未来という言葉で匂わせたいということで書いている。

**[委員長]**

・例えば、未来をとって、田園の恵みが生み出すこちよい暮らしとする方がいいという感じか。未来が違和感あると言うことか。

**[委員]**

・目指すべき未来が見えないというか、田園の恵みはすごくいいと思う。夏は緑の絨毯、秋は黄金色、本当に誇れる景色だと思うがわかりにくい。ひょうごのハートランドという言葉も、説明を聞き、そういう風景もあるというのはわかったが、代替案がなくて申し訳ない。

**[事務局]**

・委員の意見は我々も理解するが、未来という言葉が、漠然とどんなものか見えないというのが、一番大きな話だと思う。骨子案としてまとめているが、素案を作る際には、みなさんの意見を踏まえた上で、北播磨の未来、30年後はこんなふうになっているというイメージを書き込めればいいと思っている。単に未来という日本語だけで今は表現しているが、その辺の曖昧さが誤解を招くというか、よく見えないということになっていると思うので、意見を踏まえながら検討したい。

**[事務局]**

・この将来像で言いたいことは、この田園が30年後も美しい景色で、どれほどテクノロジーが発達し、開発され、生活の利便性がよくなったとしても、この自然は守っておきたい。でも、絶対無理だと思っていた出前館などが空からやってくることが可能になるようなイメージを、未来の暮らしという表現しかできなかった。この自然は、皆さんのアンケートや様々な会で、必ず守らなければいけない、皆さんが大切に誇りに思っているものだということが理解できたが、その反面、現在が不便な生活の利便性がよくなりたい。さらに、北播磨の人口が密でないこの空間で、テクノロジーの実証実験でどんどん展開されることによって、皆さんの生活がとても便利になる。それをどう表したらいいのか考え、未来の暮らしで落ち着いた。何かいい表現があれば、提案や意見をいただけたら、それがきっかけで広がるので、知恵を借りたい。

**[委員]**

・イメージができた。もう1点。五つの柱の一つ自然環境保全だが、自然の恵みが楽しめる豊かな暮らしを育てますというところで、このテーマに沿ってということだったら、今ある自然を残していくということとともに、今私達の団体でも自然の中で生きる力をつけようという事業をしているが、その自然を生かして、キャンプ教育や、

何かそういう子どもたちに、わくわくするようなことが言えたらいいのかなと思う。インフラというのは、先ほど言われたドローンでの出前館みたいなことの話が、この中に組み込まれているのかなというのがわかったが、第2章に書いてあったのかもしれないが、何か自然を生かしたそういう地域の教育などが、誇れるものに繋がっていくと思うので、入っていたらうれしいと思う。

#### [事務局]

・第2章は現状の章なので、今後、素案を作っていくときに、この一つずつの柱に対して、ライフスタイル等の皆さんが実際にイメージできるような具体的なこと、わくわくするような生活スタイルを、どこかの章に入れていきたいと思っている。それが最終的に絵や写真か、何になるかまだわからないが、今言われたような子どもたちが自然の中で学習するようなことも入れていき、30年後のイメージが、皆さんに伝わるような仕掛けや工夫をしていきたい。

#### [委員長]

・今のところは、事務局から以前に説明があり、いろいろなアンケートやヒアリング等をまとめた膨大な資料を読まれたことがあると思う。それをいろいろとばらしてあるが、例えば五つの柱に綺麗に分けられるのではなくて、あの資料の中にも、五つの柱に分けたところで、再掲、再掲と同じものが並んでいた。子どもの教育の関係で言うと、自然環境保全が子どもの教育にも繋がるし、誇れる地域、多世代交流も関係するために、強引に振り分けたところがあるが、それがここにはあまり出てこない。しかし、第2章の細かい説明のところでは、改めて前回の再掲というのは消してあるが、必要によっては再掲でも入れておくことによって、わかりやすくなるかもしれない。ただそれは、編集上の問題なので、事務局に検討いただくということにしたい。さらに、先ほどの未来の暮らしのところ、未来という言葉の問題だけかもしれないが、キャッチコピーや、キャッチフレーズのようなものというのは、それだけではなくて、それを説明することにより、その中身が進化していくというところがある。おそらくこれもこのまま出すのではなくて、どうしてこういう将来像のテーマをあげたのかという説明があるだろうから、先ほどの未来というのが、必ずしも30年後が到達した未来ではなくて、田園と都市との関係でいうと、30年後もさらに未来が望めるような、或いは見通せるような、或いはそういう期待が持てるようになっていくところで、ずっと将来を見ながら、北播磨地域が発展なり礎を重ねていくという意図も聞いたことがあるので、そういうことをちょっと踏まえていただければいいのかなという気がする。

#### [副会長]

・先ほどから議論になっていた「目指す将来像」について、私なりの解釈を述べたい。これは暮らしを描くということで、未来の産業の姿を描くのではなく2050年のどこを舞台にするかという「暮らし」だと思う。未来の暮らしというのはハイテクや人工的なものが進んだ暮らしかもしれない。しかし、いかに文明が進んだとしても、自然や田園は人類のふるさとであり、離れがたく根源的な安心感がある。人間が人間である限り、田園の恵みが生み出す暮らし、それは「こちよ暮らし」でもある。しかし「人新生」という言葉にあるように、現在は人間の文明が地球上を覆い、自然が衰退していつている。そういう中で自然の豊かさを享受できる心地よい暮らしができる地域があれば、人はそこへ寄ってくる。観光で来る人もある。このビジョンは対外的にも普遍的な価値が含まれた将来像であると考えている。

#### [委員長]

・今の解釈も含めた上で、表現をどのように反映するか検討いただきたい。



**[委員]**

・第4章地域の方向性について、さらに検討していくという話ではあったが、誇れる地域というところの、起草部会での議論を思い出すと、人材の活躍や、何か挑戦ができると言った、そういう色合いだったような気がしている。だから、多世代交流・多文化共生も人が教育も絡んできて、生き生きと暮らしていくというのがあるが、この新たな働き方、若者のフロンティアの創出とか何かもっとチャレンジできる、べっちょないと書かれているので、どちらかというとその人材が活躍できるとか挑戦ができるとか、何かそういうようなもので括れないのかなと代替案があるわけではないが、思っている。

**[委員長]**

・今の趣旨は五つの柱の中から、例えば、多世代交流・多文化共生と誇れる地域の柱から、人間の活躍というところを取り出して、もう一つ別の柱を考えたほうがいいという提案か。

**[委員]**

・少し違って、誇れる地域というのが、先ほど委員が言われたように、全てを一括りにして誇れる地域とまとめられるというのは、本当にそうだと改めて思い、それでは何が括れるのかと考えたときに、やはり人が活躍できるとか挑戦できるという要素の概念で括れないかと思っているということだ。

**[委員長]**

・誇れる地域という表現を、変えたほうがいいという提案か。

**[委員]**

・やはりその概念を階層的に考えたら、これをすべて包含した誇れる地域という説明ができると思うが、並列関係でみると、少し違和感があるというか、ここだけがやたら大きいという感じを受けたので、よりここの内容にフィットするような概念で括れないかと思った。特にアンケートなど、いろいろ思い出してきたが、特に若い人たちの、何かチャレンジできる、そういう躍動感みたいところは、多世代交流・多文化共生とは違う部分だろうと思うので、何かそういうような概念でここを置き換えられないのかなというふうに思っている。

**[委員長]**

・おそらく前回もあった議論の延長かと思う。言われるように概念の大きさが違うという指摘も、最もだという気がする。ただ、今までかなり検討した結果、これしかないと事務局として提案された。今すぐには、委員も代替案は出ないと思うが、協力いただき、時間を置いてでも、提案を事務局へ連絡いただくと助かる。

**[委員]**

・そのようにできればと思う。ただし、全県の期日を押しまで、ここをどうかしなければということではないので、その辺りは全体の進行の中で、一つの意見だと受けとめていただければありがたい。

**[委員長]**

・また個別に相談に乗っていただくことをお願いする。第5章以外のところで何かあれば、もう少しだけ時間をとるがいかがか。

**[委員]**

・2ページの(2)人口の第2段落、一方でというところから外国人が6,800人居住し、地域内の製造業の貴重な担い手となっていると記載があるが、少し偏った考えではないか。6,800人全員が製造業をしているわけではなく、技能実習生に特化した表現のような気がする。家族帯同や、日系何世の人やフィリピンとか、たくさんの方がい

るので、他の表現がよいと思う。併せて、括弧の中のビジョンを考えるポイントの④に、外国人の増加、多文化共生とある。多文化共生はすごく便利な言葉で、多文化共生、外国人と括ってしまいがちになる。私としては、例えば雇用機会の拡充とか、外国人がもっと働ける場所を、技能実習生以外の地場産業の中で活躍できるような形にするとか、ここに書くのかどうかわからないが、日本語学習支援の充実など、少し視点を変えてもらえたら嬉しいと思う。また、外国人関係になるが、4ページの、地域の絆・多世代交流のところにもまた、ポイントの⑩に多文化共生という一言がある。例えば異文化交流や理解、子ども世代の国際意識の向上など、何か表現のもっと膨らんだものがなければ、読む人にも多文化共生の一言ですまされてしまいそうな気がしたので、それが気になった。

#### [事務局]

・今後、素案を検討する際に、今の意見も反映させていきたい。

#### [委員長]

・例えば、多文化共生ということだけでなく、異文化交流や異文化理解とか、そういう言い方もあるので、併記するとか、或いはその第2章の中で、キーワードを書いた上で、外国人の日本における活動の多様性ということを、どこか文として付け加えればいいかと思う。そうすると意見が反映できると思う。

#### [副委員長]

・3ページの(4)の点線の囲みのすぐ上に、就農をはじめ、「農」や「自然」をビジネスとして捉える動きが広がっていますとあるが、この意味がわからない。昔は農がビジネスだった。それが「農」をビジネスとして捉える動きが広がっていますと言えば、今はビジネスと捉えていないのかと取られるおそれもあるので、表現に工夫がいると思う。もう一つは、6ページの上の囲みの中、⑭のところ副業として農業に参画できる仕組みというのがあるが、昔は副業でなく兼業と言っていた。最近は副業と言っているが、農業の世界では兼業農家を育てたらいいという考えがある。だから、副業にするのか、兼業か、両方にするのかということが大事かなと思う。そして2ページ、(2)人口、最近は特に20代女性の転出が多くなっていますとあり、転出全体の約4割というのは、大変大きなことではないかと思う。男性ではなくて、女性が多い。いろいろ雇用関係の統計等を調べると、女性がこれだけ転出が多いという理由もわかってきた。就業率が少ない等、兵庫県はそういうことが多数あるので、この背景にあるものを拾い出し、それを解決するようなことを書いていく必要があると思う。これは人口増にも関わるし、低賃金や高齢者の就業にも関わり、非常に広範にインパクトを持つ数字だと思うので、全部盛り込むかは別として、データを集めて考えていく必要がある。

#### [事務局]

・言葉遣いはまた検討させていただく。女性の転出が多いというのは、おそらく北播磨だけではないと思う。確かに背景まで、きちっと見ているわけではないが、18歳や22歳が突出して多いわけではない。だから大学進学、就職、普通だったらその期が多いと思うが、そこが多いわけではなく、どういう分析ができるかわからないが検討する。

#### [副委員長]

・先ほどの統計で言うと、東洋経済新報社の昨年出版された本の中からだが、女性の労働力人口の比率が、兵庫県全体の数字だが、47都道府県中45位だ。それから産婦人科の医師数が37位、正規雇用の比率が42位、そして、若者の完全失業率が31位だ。そういうことから、女性が住みにくいような感じになっているのではないか。それにも関係するが、子育てがしやすいと思うかというのがあったが、普通という言葉

は変えた方がいいと思うのと、この5位というところの関連の統計も数字が悪い。子どもに関係したところが積み重なり、そういう現象が起きていると考えられるので、その辺りの背景をつかむ必要があると思う。

**[事務局]**

・なかなか分析も難しい。例えば女性の就業率だけだと、おそらく北陸がいいと思うが、北陸も流出しているため、一概に言えず、どこまで背景が探れるかわからないが検討する。

**[委員長]**

・今の意見を参考に検討いただきたい。

**[委員]**

・先ほどの誇れる地域のところは、例えば人材育成というようなことも考えられるかと思った。

**[委員長]**

・人材育成、そういう視点も検討いただきたい。時間になったので、議題の1については、議論を終了する。第5章を中心にいただき意見を踏まえ、その都度、必要な修正について、事務局に検討をお願いしたつもりだ。それは間違いなく最終的に反映されるようにしたい。その他の検討が必要な部分、或いは再修正や、必要な部分などの指摘もいただいたので、それについては、事務局の判断と検討に一任いただいた上で、修正については、委員長として、私が確認するということでよいか。(委員：了解)一任いただいたということで、今後進めていきたい。最後に、事務局から何かあるか。

**[事務局]**

・資料2のスケジュールについて連絡する。今日の検討委員会の後は、骨子案を県庁に報告する。その後、素案の検討に入りたいので、起草部会を2回程度予定している。起草部会で素案を協議いただき、その後、検討委員会で協議いただく。それがあと2回。10月末から11月と12月から実施予定のパブリックコメントにあげる前に最終的な協議をもう一度したいと思っている。検討委員会の皆様には、あと2回、このような対面で開催したいと思うので、よろしく願います。

**[委員長]**

・今のようなスケジュールなので、余裕はないが、今後検討を続け、場合によっては、個別に事務局から問い合わせがあるかもしれないが、その際は協力いただくようお願いする。以上で本日の議事はすべて終了する。